

令和元年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」結果の概要について

1 チェックリスト実施率の推移

- 令和元年度は平成30年度と比較して胃内視鏡[個別]を除き全ての集団検診・個別検診において実施率が上昇している。特に大腸[集団]で14.8%、肺[集団]で12.1%、子宮頸[集団]で17.7%、肺[個別]で10.2%と10%以上高くなっている。
- 都においては、集団検診と個別検診との実施率の差がほとんどなく、最も差がある子宮頸がん検診でも5.4%の差となっている。乳がん検診・子宮頸がん検診では個別検診の実施率が集団検診を上回っている。
- 国立がん研究センターによる令和元年度実施率の全国平均の公表は令和2年3月下旬頃となるため、都の令和元年度実施率と平成30年度全国平均を比較すると、今まで全国平均を上回るのは胃内視鏡[個別]のみだったが、胃部エックス線[個別]・胃内視鏡検査[集団]・大腸[個別]・肺[個別]・乳[個別]・子宮頸[個別]においても上回っている。

＜平成29年度～令和元年度の都のチェックリスト実施率＞

| | 胃がん検診 | | | | 大腸がん検診 | | 肺がん検診 | | 乳がん検診 | | 子宮頸がん検診 | |
|--------------------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|
| | 胃部エックス線 | | 胃内視鏡 | | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 |
| | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | | | | | | | | |
| 令和元年度 | 79.0% | 73.0% | 71.2% | 69.6% | 78.0% | 73.6% | 75.5% | 73.5% | 74.7% | 76.7% | 72.0% | 77.4% |
| 平成30年度 | 69.4% | 65.6% | 40.4% | 70.0% | 63.2% | 65.5% | 62.8% | 63.3% | 68.3% | 68.3% | 54.3% | 67.6% |
| 平成29年度 | 56.1% | 50.9% | | | 54.6% | 49.9% | 54.1% | 50.4% | 53.9% | 52.5% | 47.5% | 51.9% |
| [参考]平成30年度 全国平均 | 79.1% | 67.4% | 66.5% | 66.3% | 78.6% | 68.0% | 78.5% | 66.3% | 79.1% | 69.8% | 78.9% | 69.9% |

2 チェックリストのうち「調査1 令和元年度の検診実施体制について」の実施率

- 調査1での実施率を平成30年度全国平均と比較すると、集団検診では胃部エックス線検査から子宮頸がん検診までの全てにおいて下回っており、胃部エックス線検査を除いて10%以上の差がある。
- 一方、個別検診では肺がん検診・乳がん検診が全国平均をわずかに上回っており、他のがん検診では下回っているものの1～2%の僅差となっている。

【全国平均を下回る項目】

- 調査1の各項目の実施率を平成30年度全国平均と比較し、2種類以上のがん検診において集団検診で20%以上・個別検診で10%以上下回っている項目は右表のとおり。

問1-2「対象者全員への受診勧奨」、問3-2-1「精検機関一覧に記載した精検機関への精検結果報告依頼」、問4-3「精検方法・結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有」は、集団検診・個別検診で共通。

【全国平均を上回る項目】

- 全国平均と比較し、2種類以上のがん検診で上回っている項目は、集団検診では問5-2「検診結果の報告要求」、問6-1「委託先検診機関の仕様書の内容に基づく選定」、問6-1-1「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」を満たす仕様書内容。個別検診では27項目中16項目が上回っており、特に問6-1は最大の大腸で27.9%、最小の胃内視鏡検査で17.1%と全てのがん検診で大幅に上回る。

＜調査1における令和元年度の都実施率及び平成30年度の全国平均＞

| | 胃がん検診 | | | | 大腸がん検診 | | 肺がん検診 | | 乳がん検診 | | 子宮頸がん検診 | |
|--------------------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|
| | 胃部エックス線 | | 胃内視鏡 | | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 |
| | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | | | | | | | | |
| 令和元年度 | 67.0% | 61.0% | 50.5% | 60.9% | 63.0% | 61.3% | 62.3% | 62.1% | 61.5% | 65.1% | 56.8% | 63.9% |
| [参考]平成30年度 全国平均 | 73.9% | 62.0% | 61.4% | 62.9% | 73.7% | 62.9% | 73.7% | 61.7% | 74.6% | 64.7% | 74.4% | 65.0% |

＜平成30年度全国平均と比較して2種類以上のがん検診で20%[集団]・10%[個別]以上下回っている項目＞

| 項 目 | | 集団検診 | 個別検診 |
|--------|---|------|------|
| 問1-2 | 対象者全員への受診勧奨 | ○ | ○ |
| 問3-1 | 受診勧奨時の説明資料配付 | ○ | |
| 問3-2-1 | 精検機関一覧に記載した精検機関への精検結果報告依頼 | ○ | ○ |
| 問4-1 | 精検方法・結果の把握 | ○ | |
| 問4-3 | 精検方法・結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有 | ○ | ○ |
| 問4-6 | 精検未受診者への受診勧奨 | | ○ |
| 問5-3 | 検診結果の委託先からの報告が地域保健・健康増進事業報告（以下、「健増報告」という。）の全項目を網羅していない場合の改善要求 | ○ | |
| 問5-4 | 精検結果を健増報告に計上するための委託先への報告要求 | ○ | |
| 問5-5 | 精検結果の委託先からの報告が健増報告の全項目を網羅していない場合の改善要求 | ○ | |
| 問6-2 | 検診機関への精度管理評価のフィードバック | ○ | |
| 問6-2-1 | 検診機関用チェックリストの遵守状況のフィードバック | ○ | |
| 問6-2-3 | 課題のある検診機関への改善策のフィードバック | ○ | |

3 チェックリストのうち「調査2 平成29年度の精度管理指標把握について」の実施率

- 調査2での実施率を平成30年度全国平均と比較すると、子宮頸[集団]のみ全国平均と同値だが、他のがん検診では集団検診・個別検診とも全国平均を上回っている。
- 調査2の令和元年度実施率を平成30年度と比較すると、胃内視鏡[個別]を除き他のがん検診では集団検診・個別検診とも大幅に上昇。

これは、「東京都精度管理評価事業」において平成30年度までは集団検診・個別検診と分けずにプロセス指標を集計していたことを改め、令和元年度より分けて集計することとしたことが原因と思われる。

- 調査2での各項目の実施率を平成30年度全国平均と比較し、下回っている項目は下表のとおり。

<調査2の項目のうち令和元年度の都実施率が平成30年度の全国平均を下回る項目>

| 項目 | 集団検診 [検診の種類] | 個別検診 [検診の種類] |
|--|-----------------|-------------------|
| 問10-2 精検未受診率の集計 | | 胃内視鏡 |
| 問13-1 早期がん割合の集計 | 胃部エックス線、乳 | 胃内視鏡、大腸、乳 |
| 問13-1-1 早期がん割合の性別・年齢5歳階級別集計 | | 胃内視鏡、大腸 |
| 問13-1-2 早期がん割合の検診機関別集計 | | 胃内視鏡 |
| 問13-1-3 早期がん割合の検診機関別集計 | 胃部エックス線 | 胃部エックス線、胃内視鏡、大腸 |
| 問13-1-4 早期がん割合の検査方法別集計 | 乳 | |
| 問14-1 粘膜内がん、非浸潤がんの集計 | 胃部エックス線、大腸、乳 | 胃部エックス線、胃内視鏡、大腸、乳 |
| 問15-1～ 15-2-3 上皮内病変（CINなど）数、微小浸潤がん割合の集計 | 子宮頸 | |

※集団・個別検診の各欄には下回っているがん検診の種類を記載

<調査2における令和元年度の都実施率及び平成30年度の全国平均>

| | 胃がん検診 | | | | 大腸がん検診 | | 肺がん検診 | | 乳がん検診 | | 子宮頸がん検診 | |
|--------------------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|
| | 胃部エックス線 | | 胃内視鏡 | | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 |
| | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | | | | | | | | |
| 令和元年度 | 89.8% | 83.5% | 89.7% | 77.3% | 90.8% | 85.4% | 87.8% | 82.5% | 86.0% | 86.9% | 82.8% | 89.6% |
| [参考]平成30年度 全国平均 | 84.1% | 72.6% | 65.7% | 71.8% | 83.5% | 72.7% | 83.6% | 70.4% | 83.2% | 74.2% | 82.8% | 74.2% |

<調査2の令和元年度と平成30年度の都実施率>

| | 胃がん検診 | | | | 大腸がん検診 | | 肺がん検診 | | 乳がん検診 | | 子宮頸がん検診 | |
|--------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|
| | 胃部エックス線 | | 胃内視鏡 | | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 |
| | 集団検診 | 個別検診 | 集団検診 | 個別検診 | | | | | | | | |
| 令和元年度 | 89.8% | 83.5% | 89.7% | 77.3% | 90.8% | 85.4% | 87.8% | 82.5% | 86.0% | 86.9% | 82.8% | 89.6% |
| 平成30年度 | 77.7% | 75.4% | 41.5% | 84.6% | 69.9% | 75.0% | 67.3% | 69.0% | 75.0% | 76.2% | 56.7% | 76.8% |

4 都内地域別の実施率[集団検診]

- 23区・多摩地域・島しょ地域別の実施率は、乳がん検診では多摩地域が最も高いが、他のがん検診では23区、多摩地域、島しょ地域の順に低くなる。
- 多摩地域では大腸がん・肺がん検診の調査1において23区より10%以上下回っている。
- 23区と島しょ地域では、胃内視鏡の調査2を除き10%以上の乖離があり、特に大腸がん検診の調査1、肺がん検診の調査1・2において30%以上の差となっている。

<23区・多摩地域・島しょ地域の令和元年度実施率（調査1・調査2別）>

| | 胃がん検診 | | | | 大腸がん検診 | | 肺がん検診 | | 乳がん検診 | | 子宮頸がん検診 | |
|-------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|
| | 胃部エックス線 | | 胃内視鏡 | | 調査1 | 調査2 | 調査1 | 調査2 | 調査1 | 調査2 | 調査1 | 調査2 |
| | 調査1 | 調査2 | 調査1 | 調査2 | | | | | | | | |
| 23区 | 72.0% | 95.8% | 69.4% | 96.2% | 77.5% | 96.2% | 80.0% | 96.7% | 61.9% | 85.2% | 70.2% | 92.2% |
| 多摩地域 | 66.0% | 90.3% | - | - | 65.0% | 95.1% | 64.2% | 93.4% | 63.6% | 90.2% | 63.7% | 91.6% |
| 島しょ地域 | 60.6% | 72.3% | 41.0% | 88.5% | 47.4% | 78.2% | 47.4% | 66.2% | 51.0% | 71.7% | 42.3% | 68.5% |

チェックリスト実施状況向上のための今後の課題

- 都では、長年に渡り「東京都精度管理評価事業」を実施してきたため、精度管理指標については全国と比較しても把握が進んでいる状況である。
- 一方で、検診実施体制については全国平均に達していない。特に、集団検診において、最小の胃部エックス線で6.9%、最大の子宮頸で17.6%の差がある。
- 検診実施体制のうち、問1-2「対象者全員への受診勧奨」問3-2-1「精検機関一覧に記載した精検機関への精検結果報告依頼」問4-3「精検方法・結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有」の実施率は、全国平均と比較して集団検診・個別検診とも大幅に下回っており、当項目の実施状況改善のための取組が必要である。
- また、地域別では、大腸・肺がん検診の実施体制の実施率に23区と多摩地域で乖離があり、島しょ地域では全てのがん検診において大きな差が生じている。がん検診に係る職員のマンパワーや医療資源等が原因と考えられるが、可能な限り地域間格差が改善されるよう、都として当該区市町村に対して助言・指導等を行っていく必要がある。